

JFFID 女子日本代表

大和シルフィードインクルーシブスタジアム DAY エキシビジョンマッチ

報告

報告者: (特非) 日本知的障がい者サッカー連盟 (JFFID)

女子日本代表監督 稲葉政行

日時: 2025 年 5 月 31 日 (土) ~ 6 月 1 日 (日)

会場: 大和なでしこスタジアム、藤沢清流高校他

概要

本プログラム「大和シルフィードインクルーシブスタジアム DAY」は、神奈川県大和市を本拠地に置くなでしこリーグ所属大和シルフィードが実施する「〜Football For All〜サッカーを通じて、誰もがスポーツを身近に、楽しみ、心身が元気になる 1 日を目指す」をテーマに開催され、6 月 1 日 (日) に女子日本代表チームが大和シルフィードアカデミーとのエキシビジョンマッチに参加する。

今回は、5 月 31 日 (土) から合宿を行い、6 月 1 日 (日) のエキシビジョンマッチの準備とした。知的障がい者サッカー女子日本代表として、国内で初の JFA ユニフォーム着用の機会となり、11 人制の試合も初めての試みとなった。

目的

①on the pitch…女子日本代表チームとして勝利を目指し、全力で闘う。全員守備・全員攻撃を目指し、特に守備から攻撃への切り替えを素早く行いシンプルにゴールを目指す。

②off the pitch…JFA ユニフォームを着用して、日本代表として、一体感、責任感、感謝、夢と誇り、覚悟を持って、全力でサッカーを楽しむ。

プログラム内容

5 月 31 日 (土)

- ①会場集合
- ②ガイダンス
- ③トレーニング

6 月 1 日 (日)

- ①試合会場へ移動
- ②エキシビジョン
マッチ
- ③なでしこリーグ観
戦
- ④ウォーキングフッ
トボール参加



© UCHIDA Kazutoshi

GP (GK)

2名の選出でしたが、技術的にはバックアップメンバーを含めてのGPのレベルアップが必要のように感じました。両名ともに以前に比べ少し技術、精神的には成長はしているように感じられましたが、まだまだ改善すべきことは山積しています。以下に挙げると、

- ①構えの姿勢や移動時のステップなどの安定した動作の獲得の必要性
- ②キャッチングの正確性の獲得
- ③意識として、一つひとつの動作の確実性、大切さの理解
- ④ゴールを守るという強い意識
- ⑤配球、攻撃への第一歩と意識、行動（プレー選択）の切り替え



守備・守備セットプレー

守備では、数的劣位または数的同位の状況で、中央を閉めて「ゴールを守る」守備から、いづどこで、またどんな時に「ボールを奪う」守備に転じるかを整理していきました。奪いきれない場合には再度粘り強い守備に切り替え次のチャンス进行うことにも取り組みました。1stDFはボールへの制限、その他の選手がボール中心の守備（人とスペース）の立ち位置獲得に時間を要しましたが、一人ひとりの距離を13m以内にすること、40m×26m程度のコンパクトフィールドを形成して守る事を約束事とし、意図的に奪えるシーンは体感できたと感じます。



フリーキックやコーナーキックでの守備について、GPやディフェンス陣を中心に身体的側面や能力的側面を皆で考えてポジショニングを決めていた印象を持ちました。例えばフリーキックの際は身長などを考慮して壁に誰を立てさせるか、ゴール前には対人に強い選手を置くなど選手の特徴や戦術も考えていたように思います。また、左右のコーナーキックの守備陣営では、一つは混乱が起こらないように左右で対照的に立ち位置を置く、左右のどちらのキックなのかでクリアの方向なども皆で意見しあっていました。

攻撃・攻撃セットプレー

相手ボール時は、1stDFの決定とチャレンジ&カバーを繰り返す行い、ボールを奪ってカウンター攻撃を意識して行いました。セパレートファンクショントレーニングでは守備の時間が多かったですが、奪った後の切り替えではフロントグリットへ素早いサポートの意識がありました。ゲーム形式のトレーニングでは奪った後に素早いカウンターで何度か背後を狙う動き出しも見られました。

試合ではよい形でボールを奪い何度かカウンター攻撃につながるシーンがありました。意識する点として挙げていた攻撃選手の動き出しの方向は良かったのですがタイミングのずれによりオフサイドのシーンが多く見られました。受け手だけでなく、出し手との意思疎通も図っていくこ



とが今後大切になってくると思います。

セットプレーの攻撃について、攻撃選手でコーナー等の配置を行うことができ、セットプレーは得点につながるチャンスでもあるという認識を選手たちがしっかり持っている印象がありました。ゴール前にはどんな選手を配置するべきか、キッカーはどのような選手がよいのかなど話し合う様子が見られ、実際にエキシビジョンマッチではセットプレーの機会はなかったものの、十分にセットプレーの準備と気持ちの準備ができていたと感じました。

総括

2022年度、2023年度はスペシャルオリンピックス UAE 女子ユニファイドフットボールチームとの交流プログラムにおいて7人制で編成された女子日本代表チームでしたが、今回は初の11人制でチーム編成しました。

準備期間は短かったものの、事前に選手にはコンセプト及びコンセプト映像を共有し、また事前のオンラインミーティングでも、攻撃・守備・GP・セットプレーのチーム戦術を確認しました。一日目の集合時には、雨天のため会場変更、雷による一時中断などの予定変更を余儀なくされましたが、選手たちは冷静に対応してくれました。

一日目は、藤沢清流高校女子サッカー部さんにトレーニングパートナーを務めていただき、自陣での粘り強い守備からの素早い攻撃のチームコンセプトを落とし込む試合形式のトレーニングを実施しました。トレーニング前半は、ポジション別ファンクショントレーニングで各自のタスクと約束事を確認し、トレーニング後半はゲーム形式でチーム全体としてどのように奪い、そして攻撃するかを整理していきました。藤沢清流高校女子サッカー部さんの質の高い攻撃をただ守るのではなく、チームとして奪いどころを定め、素早く攻撃に転じることを目指しました。特に良かった点としては、試合で起こりうる多くのエラーをエキシビジョンマッチ前日のトレーニングで選手が体感できたことが挙げられます。我々女子日本代表チームに対して、全力で攻撃し続けてくれた藤沢清流高校女子サッカー部さんに感謝します。

二日目のアップで、奪った後の攻撃の質について調整しエキシビジョンマッチに臨みました。大和シルフィードアカデミーさんの鋭い攻撃、身体を張った強いディフェンスに主導権を握る時間は少なかったですが、前日のトレーニングの成果は大きく、チームとして前向きで奪った時には素早く攻撃に転じるプレーを作り出すことができました。ただ、奪った後のボールロストも目立ちフィニッシュまで至らない、あるいは突破しかけたシーンでもオフサイドにかかってしまう等、相手とのかけひき、ワンタッチプレーの質の部分で未熟さが残ったエキシビジョンマッチでもありました。試合を通して、質の高いサッカーを展開して頂いた大和シルフィードアカデミーさんのお陰で課題がより明確になった部分でもありました。感謝いたします。

一方、一泊二日の短期間でも、映像を確認しながらチームトレーニングを繰り返すことで、コンセプト理解が促進され、ピッチでのプレーに変化が見られる等、彼女達の能力の高さもうかがえました。

試合結果

知的障がい者サッカー女子日本代表 0-5 (0-2) 大和シルフィードアカデミー

さいごに

今回の一泊二日の合宿では、選手達は代表ウェアを着用し公共交通機関を移動し、また国内で初めての試合ということもあり、多くの方々の前で行動することができました。人前で注目される経験は選手の自己肯定感を育む上でも効果は大きく、電車内で「どこのカテゴリーの代表だろう？」と周囲から見られていました。

また、宿泊先のグランドホテル神奈中平塚の皆さんは選手を温かく迎え入れて下さいました。さらに、大和なでしこスタジアムでは、なでしこリーグの選手と同じピッチという素晴らしい環境でプレーさせて頂きました。

大和シルフィード・大和シルフィードアカデミーの皆様、JFA・JIFFの皆様、スポンサー・パートナーの皆様

様、グランドホテル神奈中平塚の皆様始め、ご声援くださいました皆様、関係の皆様には、エキシビションマッチ開催にあたり多くのご理解とご支援をいただき、選手が全力を出し切るための力をいただきました。この場をお借りして感謝と御礼を申し上げます。一泊二日の合宿とはいえ、見違えるように選手達はたくましく成長しました。日頃から選手を育てて頂いている所属チームの皆様、所属 FID の皆様には心より感謝と御礼を申し上げます。

引き続き知的障がい者サッカー女子日本代表へのご声援をお願い致します。

女子日本代表・スタッフ一覧

GP	山下 莉奈 (静岡県)
GP	山口 加純 (静岡県)
DF	山下 七海 (静岡県)
DF	矢島 琴海 (東京都) ※体調不良のため全日程不参加
DF	工藤 彩華 (栃木県)
MF	大塚 恵美 (福岡県)
MF	前田 友花 (静岡県)
MF	大谷 萌 (東京都)
MF	後藤 千尋 (岐阜県)
MF	新田 里緒 (神奈川県)
MF	辻野 伶香 (長崎県)
MF	常葉 佳也子 (静岡県)
FW	鈴木 理恵 (神奈川県)
FW	内藤 奈保子 (大阪府)
監督	稲葉 政行
コーチ	石田 永愛
AT	野地 吾希夫
主務	長田 菜美子

